



報 廣

市民の友

2001年（平成13年）

8 月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷 (株) 池宮商会

RBC・午前9時15分から25分まで



那覇市
ホームページ

<http://www.city.naha.okinawa.jp/>



主な紙面

- (2面) 家庭ごみの有料化について審議始まる
- (3面) 戸籍事務がコンピュータ化
- (4面・5面) 8月に市役所の事務室が一部移転します
- (6面) 泊配水池の工事着工
- (7面) 情報PACK

はじけ咲く歓声、笑顔、水しぶき。

水を得たトロピカル
フィッシュたち

「待ちきれなくて机の上に水着バッグを置いてワクワク視線で見つめているんですよ」。

プールのサイドの担任の先生の言葉に子どもたちが楽しみにしていたように目が浮かびます。2000年に新設された「市立さつき小学校」（児童658名、宮里彰校長）での夏風景。

屋上プールの水面は空の青を溶いて流し込んだようなミントブルーが目にはやさしく、見ているだけで涼感を与えてくれます。始業チャイムが鳴って、2年4組の子どもたちが水着で集合。最初は水に入る前に大切な準備運動。「ゴーロク、シチハチ・・・」と元気に体操した後、プールサイドに座り、水しぶきをあげて足をバタバタ。そして、ザブーン。赤・緑・黄色・オレンジ・ピンクとカラフルなスイミングキャップの「水を得たトロピカルフィッシュ」たち。

「忍法ブクブクの術」、「水中ランニング」、「輪くぐり」

「水中ジャンケン」とみんなと一緒に楽しくゲーム。

「ロケットジャンプ」では水中から空へ何度も跳ね上がり、大きな水しぶきと歓声と笑顔が賑やかに咲きはじまりました。

それはまるで長い夏のはじまりを告げる白日の連発花火のようキラキラと輝いていました。

世界遺産の 周辺から



那覇の文化財②

上天妃宮跡の石門

(かみてんぴぐうあとのいしもん)

その築造年代から、一五世紀のころに「あいかに積み」が登場したものと考えられます。

那覇市内でも、「あいかに積み」が登場した時期の、「布積み」とマンチャーヒンチャー(混ぜこぜ)になった石垣を見ることが出来ます。それが、「上天妃宮の石門」です。

世界遺産「琉球王国」のグスク及び

「関連遺産群」に登録された文化遺産の特徴の一つに、巧みな石積みめの技術が挙げられます。

沖縄における石積みは、まず、自然の石を積み上げた「野面積み」にはじまり、石を四角く加工した「布積み」を経て、自然の石の形を活かしながら手を加えた「あいかな積み」へと発展して行きました。

特に「あいかた積み」は、沖縄で産み出された技法で、互いの石が巧みに噛み合わされ、たとえ一つや二つの石が抜けても、容易には崩れないように工夫されています。

世界遺産の一つでもある「座喜味城跡」の城壁には、「布積み」と「あいかた積み」が混用されており



市立天妃小学校の一角にある「上天妃宮跡の石門」は、天妃と中国から伝えられた航海の安全を守るという女神をまつていました。天妃は一〇世紀の後半、福建省莆田県に実在した媽祖（まそ）と呼ばれた占いにたけた女性で、その死後、神として崇められるようになりました。天妃への信仰は、一四世紀の末、中国から渡来した閩人三六姓（びんじんさんじゅうろくせい）とともに伝えられたようです。



上天妃宮は、そこにかけられていた鐘に記された「景泰丁丑年」（一四五七年）という年号から、一五世紀の半ばにつくられたと考えられ、石門やそれに続く石垣も、その当時のもので考えられます

「あいかた」とは、石と石の角や丸みの部分を合わせることをいい、自然のままの形を活かしながら、細心の気配りで石を組み合わせていく技法を的確に捉えた表現です。

(那覇市教育委員会
文化財課)